

令和 2 年 6 月 16 日現在

機関番号：30107

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17210

研究課題名（和文）サービス業におけるイノベーションの創出が組織業績に与える影響の理論的・実証的研究

研究課題名（英文）A theoretical and empirical study of the impact of innovation creation on organizational performance in the service industry

研究代表者

関谷 浩行 (SEKIYA, Hiroyuki)

北海学園大学・経営学部・准教授

研究者番号：50734505

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではマネジメントコントロール・システムの視点から、経営戦略の違いによってインタンジブルズが組織業績にどのような影響を及ぼすのかを検証した。その結果、探索型企業は、レピュテーションが企業価値に与える影響は小さいこと、また、新たな市場の開拓を目指す傾向にあることが示唆された。一方、防衛型企業ではイノベーションは企業価値に与える影響は小さいこと、また、既存の市場・顧客を維持するためにレピュテーションを重視する傾向にあることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

マネジメントコントロール・システム（MCSs）は、設計者の意図したように機能するとは限らない。MCSsの機能はそれぞれの現場でMCSsがどのように利用されるかにも左右される。本研究では、インタンジブルズを測定して管理するためには、経営戦略のタイプも考慮することで組織業績に与える影響が異なることが示唆された。本発見事項は、理論的にも実務的にも意義深い。

研究成果の概要（英文）：The present study analyzes how different strategies and management control systems impact intangibles, the source of corporate value. As a results that in prospector companies, reputation does not impact corporate value; these firms aim to create new markets through innovation, and are less concerned with reducing reputation risk. By contrast, in defender companies, innovation does not affect corporate value; these firms place emphasis on preserving their reputation to retain existing markets and customers.

研究分野：管理会計

キーワード：インタンジブルズ イノベーション サービス業 病院 医療 管理会計 マネジメント・コントロール 経営戦略

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

コーポレート・レピュテーション (corporate reputation: 企業の評判) が、財務業績に多大な影響を及ぼすであろうことは一般にも認識されていたものの、2008 年頃までは財務業績への影響を実証しようとする研究は、日本ではほとんど皆無の状況であった。コーポレート・レピュテーションは、企業価値を創造するインタンジブルズ (intangibles) である。インタンジブルズとは、ブランド、イノベティブなビジネス・プロセス、従業員のスキル、情報技術、組織文化など、企業の価値創造プロセスを支援する源泉である。言い換えれば、無形の価値の源泉である。インタンジブルズは、ただ持っているだけでは価値がなく、経営戦略と結びつけることで企業価値が創造される (Kaplan and Norton 2004)。

研究代表者はわが国の製造業を主な対象として、科学研究費補助金の交付申請以前からコーポレート・レピュテーションに関する実証研究の共同研究に取り組んできた。その成果の一部は、日本会計研究学会の学会誌『会計プロGRESS』および American Accounting Association (アメリカ会計学会) の Annual Meeting 等において、研究成果を報告してきた。当該研究は国際的なレピュテーション指標であるレピュテーション・インスティテュート社の RepTrak™ を活用し企業のレピュテーションメカニズムを解明した極めて先駆的な研究である。しかし、イノベーション等のインタンジブルズが企業の価値創造においてどのように貢献しているのか、また組織業績との関係性について必ずしも先行研究では明らかにされていない。

そこで、研究代表者がこれまで取り組んできた価値創造に資するコーポレート・レピュテーションに関する研究成果をもとに、調査対象を製造業のみならず、サービス業にも拡張した研究を行う必要があると考え研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、マネジメントコントロール・システム (以下、MCSs) の視点からイノベーションを含むインタンジブルズが組織業績にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることにある。具体的には、以下の2つのサブテーマに関する検証を行う。なお、本研究におけるサービス業とは、医療業 (主に病院) を対象としている。

(1) サブテーマ1: MCSs の視点から、経営戦略の違いによってインタンジブルズが組織業績にどのような影響を及ぼすのかを明らかにする。

(2) サブテーマ2: 医療業で適用されている管理会計システムの実態を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究の目的を果たすために、以下のような研究方法を採用し、概ね当初の計画どおりに実施することができた。

(1) 文献に基づく理論研究

MCSs 理論、イノベーション等の観点から先行研究を整理する。

(2) 郵送による質問票調査

実証研究を行うため、質問票調査を実施する。

(3) 実務家へのインタビュー調査

上記(1)(2)の研究成果を統合し、研究を強化するために、先駆的な実務を運営している複数の組織体へのインタビュー調査を行う。

4. 研究成果

(1) 2016 年度

2016 年度は、研究計画に沿う形で(1)イノベーションのタイプ分け、(2)イノベーションのタイプと不確実性の関係の先行研究を整理した。各概要については、以下のとおりである。(1)イノベーションのタイプ分け: 先行研究の体系的な整理によって、従来のイノベーションと MCSs に関する研究では、Simons(1995)の4つのコントロール・レバーのうち、主に診断的コントロール・システムおよびインターラクティブ・コントロール・システムの2つに焦点が当てられていること、イノベーションの中でも主に製品イノベーションが対象とされていること、調査対象が主に製造業に限定されているなど、経験的証拠に基づく検討が十分に行われていないことなどが確認された。(2)イノベーションのタイプと不確実性の関係: イノベーション・プロセスにおける MCSs の役割を理解するためには、不確実性との関係を整理する必要がある。企業の価値創造に資するイノベーション・プロセスと不確実性の関係について代表的な文献を基に考察し、どのような点に留意すべきかを整理した。これらの研究成果の一部は、学会発表1件において明らかにした。

(2) 2017 年度

2017 年度は、(1)イノベーションが組織業績に影響を与える要因分析、(2)郵送による質問票調査、(3)サービス業を対象にしたインタビュー調査を計画した。各概要については、以下のとおりである。(1)イノベーションが組織業績に影響を与える要因分析: イノベーション等のインタンジブルズ(独立変数)と組織業績(従属変数)の関係性は、企業規模・業種・企業文化などの緩和変数の影響を受ける。前年度に立てた仮説をより強固なものにするため、別の条件下での状況を調べるといった目的で、MCSs などの管理会計以外の学術領域にまで先行研究を拡張し

て整理した。(2) 郵送による質問票調査：東証一部上場企業 1,386 社を対象にした郵送調査を実施した。(3) インタビュー調査：実務家へのインタビュー調査を行うことによって、これまでの分析結果が現実に即したものであるか、また分析における漏れを異なる方法によって確認することを狙いとした。これらの研究成果の一部は、学会発表 3 件、論文 1 件、図書 1 件において明らかにした。

(3) 2018 年度

2018 年度は、昨年度に着手できていなかった組織体に対するインタビュー調査を中心に計画を遂行した。これらの研究成果の一部は、学会発表 3 件、論文 2 件、図書 2 件において明らかにした。

(4) 2019 年度

2019 年度は、以下の 2 つのサブテーマに関する研究を遂行した。第 1 のサブテーマは、インタンジブルズが組織業績に与える影響について実証研究を行った。具体的には、2017 年度に実施した質問票調査の分析・検討を行った。経営戦略が異なれば、企業価値に貢献するインタンジブルズも異なる (Kaplan and Norton 2004)。伊藤・関谷(2016)は、インタンジブルズと企業価値の関係性モデルに経営戦略タイプ (Miles and Snow 1978) と MCSs を取り込んだ新たなフレームワークを提案した。質問票調査は東証一部上場企業(1,386 社)を対象とした(有効回収数 149 社、有効回収率 10.75%)。分析の結果、探索型企業は、レピュテーションが企業価値に与える影響は小さいこと、また、新たな市場の開拓を目指す傾向にあることが示唆された。一方、防衛型企業ではイノベーションは企業価値に与える影響は小さいこと、また、既存の市場・顧客を維持するためにレピュテーションを重視する傾向にあることが示唆された。

第 2 のサブテーマは、サービス業のうち主に病院を対象にした管理会計システムの実態について検討した。具体的には、病院の管理会計システムを把握するための郵送による質問票調査およびインタビュー調査を実施した。本研究では、病院で利用されている主に 12 の管理会計システム(活動基準原価計算、バランスト・スコアカード、予算管理、事業計画、原価企画、設備投資計画、目標管理、方針管理、アメーバ経営、部門別原価計算、トヨタ生産システム、総合的品質管理)を調査し、事業計画(66.1%)、予算管理(57.1%)、目標管理(37.8%)、設備投資計画(33.9%)、方針管理(29.2%)の順で導入率が高かった。民間企業と比較した場合、民間企業ではバランスト・スコアカードの導入率は 7.9%から 9.5%程度しか導入されていないが、病院では 22.7%という高い導入率であることが明らかになった。これらの研究成果の一部は、学会発表 1 件、論文 5 件において明らかにした。

<引用文献>

伊藤和憲・関谷浩行. 2016. 「インタンジブルズと企業価値に関わる理論的モデルの構築」『会計学研究』42: 1-32.

Kaplan, R. S., and D. P. Norton. 2004. *Strategy Maps: Converting Intangible Assets into Tangible Outcomes*. Boston, MA: Harvard Business School Press (櫻井通晴・伊藤和憲・長谷川恵一監訳. 2014. 『戦略マップ：バランスト・スコアカードによる戦略策定・実行フレームワーク 復刻版』東洋経済新報社).

Miles, R. E., and C. C. Snow. 1978. *Organizational Strategy, Structure and Process*. New York: McGraw-Hill (土屋守章・内野崇・中野工訳. 1983. 『戦略型経営：戦略選択の実践シナリオ』ダイヤモンド社).

Simons, R. 1995. *Levers of Control: How Managers Use Interactive Control Systems to Drive Strategic Renewal*. Boston, MA: Harvard Business School Press (中村元一・黒田哲彦・浦島史恵訳. 1998. 『ハーバード流「21世紀経営」4つのコントロール・レバー』産能大学出版部).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Ito Kazunori, Umeda Shu, Sekiya Hiroyuki	4. 巻 8
2. 論文標題 Impact of Intangibles on Corporate Value	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Human Resource and Sustainability Studies	6. 最初と最後の頁 131 ~ 150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.4236/jhrss.2020.82008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 関谷浩行	4. 巻 -
2. 論文標題 医療機関におけるマネジメント・システムのアンケート調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本管理会計学会2017年度スタディ・グループ『医療機関におけるマネジメント・システムの導入とその成果に関する研究(最終報告書)』	6. 最初と最後の頁 135 ~ 185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 阪口博政・関谷浩行	4. 巻 -
2. 論文標題 日本版医療MB賞を利用した病院マネジメント：元気会横浜病院の事例研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本管理会計学会2017年度スタディ・グループ『医療機関におけるマネジメント・システムの導入とその成果に関する研究(最終報告書)』	6. 最初と最後の頁 82 ~ 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 関谷浩行・梅田宙・伊藤和憲	4. 巻 16 (1)
2. 論文標題 病院におけるバランスト・スコアカードとインタンジブルズの実態調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医療バランスト・スコアカード研究 / 日本医療バランスト・スコアカード研究学会	6. 最初と最後の頁 58 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 関谷浩行	4. 巻 103
2. 論文標題 富士メガネの価値創造経営:BSCの規制と社会のプロセスからの検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 開発論集 / 北海学園大学開発研究所	6. 最初と最後の頁 59 ~ 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅田宙・関谷浩行・伊藤和憲	4. 巻 4
2. 論文標題 エマージェント組織のインタンジブルズ・マネジメント:A社のケース・スタディ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本知的資産経営学会誌 / 日本知的資産経営学会	6. 最初と最後の頁 44 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関谷浩行・梅田宙・伊藤和憲	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 戦略マップによるインタンジブルズの関連づけ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医療バランスト・スコアカード研究 / 日本医療バランスト・スコアカード研究学会	6. 最初と最後の頁 155 ~ 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤和憲・関谷浩行	4. 巻 105
2. 論文標題 インタンジブルズによる企業価値への影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 専修商学論集 = Commercial review of Senshu University / 専修商学論集編集委員会 編	6. 最初と最後の頁 19 ~ 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 梅田充・関谷浩行・伊藤和憲
2. 発表標題 インタンジブルズが企業価値に及ぼす影響:戦略とマネジメント・コントロールシステムに焦点を当てて
3. 学会等名 日本管理会計学会2019年度年次全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関谷浩行・梅田宙・伊藤和憲
2. 発表標題 医療機関のマネジメント・システムの実態調査とインタンジブルズ
3. 学会等名 日本会計研究学会北海道部会第94回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関谷浩行・梅田宙・伊藤和憲
2. 発表標題 病院マネジメントの実態調査とインタンジブルズ
3. 学会等名 日本医療バランスト・スコアカード研究学会第16回学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤和憲・関谷浩行・梅田宙
2. 発表標題 スタディ・グループ中間報告 医療機関におけるマネジメント・システムの導入とその成果に関する研究
3. 学会等名 日本管理会計学会2018年度全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関谷浩行・梅田宙・伊藤和憲
2. 発表標題 戦略マップによるインタンジブルズの関連づけ
3. 学会等名 日本医療バランスト・スコアカード研究学会第15回学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梅田宙・関谷浩行・伊藤和憲
2. 発表標題 エマージェント組織のインタンジブルズ・マネジメント：A社のケーススタディ
3. 学会等名 日本管理会計学会2017年度第2回リサーチセミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梅田宙・関谷浩行・伊藤和憲
2. 発表標題 チーム型組織とインタンジブルズ・マネジメント：A社のケーススタディ
3. 学会等名 日本知的資産経営学会第6回研究年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤和憲・関谷浩行
2. 発表標題 インタンジブルズによる企業価値への影響
3. 学会等名 日本会計研究学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 北海学園大学経営学部	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同文館出版(株)	5. 総ページ数 244
3. 書名 ナビゲート経営学	

1. 著者名 伊藤和憲・小西範幸監訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同文館出版(株)	5. 総ページ数 240
3. 書名 戦略的管理会計と統合報告	

1. 著者名 櫻井 通晴・伊藤 和憲編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 320
3. 書名 ケース管理会計	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考